

6. 景観デザイン指針（建築施設編）

《目 次》

(1) 景観デザインの基本原則	59
(2) 構想段階	60
(3) 計画段階	62
(4) 設計段階	70
① 建築物の配置・形態	
② オープンスペースの創出	
③ ファサード・エントランスのデザイン	
④ 屋外設備等	
⑤ 駐車場・ごみ置き場等	
⑥ 敷地境界部分のデザイン	
⑦ 工作物	
⑧ 一団の開発	
⑨ 屋外広告物・サイン	
⑩ 照明	
⑪ ストリートファニチャー・パブリックアート	
⑫ 色彩・素材	
(5) 施工段階	95
(6) 維持・管理段階	96
(7) 施設別の景観デザインモデルスタディ	97
① 商業・業務系施設	
② 住居系施設	
③ 工業系施設	
④ 一団の開発（戸建て住宅団地など）	
(8) 関連資料	105
① 写真撮影箇所一覧	
② 用語解説	
③ 参考文献	

（１）景観デザインの基本原則（篠原修編「景観用語辞典 増補改訂版」／彰国社より転載）

公共施設や公共空間は、不特定多数の人々が日常的に利用するものであり、また耐用年数がきわめて長いものなので、誰が見てもまた時の推移に対しても普遍的な美しさを持ったものを作る必要があります。

このため、景観デザインにあたっては、一貫した考えのもとに、次第に成熟していくような設計を心がけるべきであり、決して一時の流行や設計者の趣味に左右された設計をしてはいけません。以下に景観デザインにあたって遵守すべき五つの基本原則を示します。

① 応格の原則

公共施設には、機能的な面での「格付け」と位置や使われ方による「格付け」があります。例えば、道路では幹線道路、区画道路などの機能面での格付け、また表通り・裏通り、目抜き通り、路地などの格付けがあります。「格」が異なれば、利用方法や雰囲気、景観が異なるのは当然あり、この格に応じた景観デザインを行うことが求められます。

② 洗練の原則

構造物を設計する際には、強度と耐久性を考えて構造計算を行い、寸法が決まります。この構造計算から求められた寸法は、力学的にもたせるための寸法であり、生の形です。それを全体のバランスやプロポーションから見直して、より洗練された姿・形に仕上げていくことが必要です。構造物の形を整えることを「造形」と言います。

③ 背景の原則

景観デザインにあたっては、主役（図）と脇役（地、背景）、さらには舞台との関係をわきまえることが重要です。河川景観においては、主役は水や水辺で遊ぶ人々であり、護岸はそれらを美しくあるいは快適にするための舞台装置です。しかし、舞台だからといって粗っぽく仕上げてはいけません。人間が引き立つような舞台として、目触りと肌触りのよいディテールとする必要があります。

④ 首尾一貫の原則

景観形成には、事業実施及び空間形成の両面で首尾一貫が求められます。事業実施の側面では、構想、計画、設計、施工、維持管理に至る事業の時間的な流れの中で、また空間の側面では、道路、河川の景観が沿道や沿川の施設や土地利用などと一体となって統一され、首尾一貫した考えが具体化されるよう努力する必要があります。

⑤ 他力本願の原則

景観は、天候、季節、年月によって変化し、また土地利用の変化や建物の更新などによっても変化します。自然は、景観を変化させ、成熟させる力を持っています。そこで、自然などの他力をうまく活用し、景観形成に役立てることが出来ます。その第一は、自然素材の導入です。第二は、自然の地物の取り込みです。遠景の山や水面を道路や建物の眺めに取り込めば、印象深い景観を創り出すことが出来ます。

（２）構想段階

地域の景観は、自然、歴史、文化等とそこに暮らす人々の営みが調和することによって、育まれ、形成されていくものです。例えば河川や水路の周辺では、利水・治水を通じて生活や文化に密接な関わりをもちながら形成された水郷景観が、旧街道の沿道では宿場を中心として発展した宿場町の街並みが、山間部では山並みを背景とした集落による農村景観が形成されてきました。こうした景観資源を把握することが、地域の良好な景観を形成・保全していく上で重要なことです。

これらから地域一帯の景観構想をイメージし、デザイン方針を検討していきましょう。

1) 区域周辺の景観資源を調査、把握・・・場所性（場の環境）の読み取り

○自然景観を読みとる

- ・山、丘陵地、斜面などの自然地形を読みとる
- ・河川、海、水路、池などの水辺空間を読みとる
- ・田園や畑、果樹園など農地の風景を読みとる
- ・地域の特色となる動植物の生息状況を読みとる



緑の骨格となる笠井山



山間を悠々と流れる旭川



里山・棚田と調和する集落

○歴史・文化的景観を読みとる

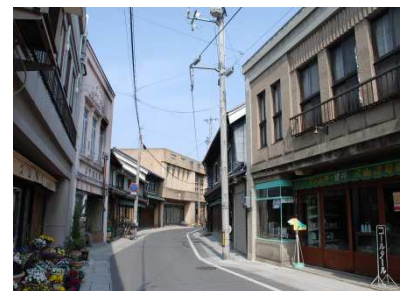
- ・寺社仏閣や史跡、伝統的家屋など、地域周辺の歴史的建築物を読みとる
- ・石積みや水門、雁木など地域周辺の土木遺構を読みとる
- ・旧街道やその沿道に広がる城下町、宿場町、陣屋町など地域の生い立ちを読みとる
- ・祭りや風習など、地域の特色となる文化・伝統を読みとる



庭瀬往來の歴史的街並み



干拓の歴史を物語る樋門



西大寺地区の擬洋風建築物の街並み

○市街地・集落景観を読みとる

- ・賑わいのある商業地、閑静な住宅地など、まちのまとまりやイメージを読みとる
- ・農地と農家集落、港湾と漁村集落など、暮らしに根付いた街並みを読みとる
- ・周辺の道路からの見え方や見通しなど、沿道と一体的な街路空間を読みとる
- ・地域のシンボル、ランドマークを読みとる



表町商店街の賑わい



緑溢れる住宅地



緑豊かにまちに溶け込む鳥城みち

2) 景観形成の目標

公共施設の構想段階においては、上記のとおり抽出した地域の「景観特性」を踏まえて、地域の景観をどのように整備または保全すべきか景観形成の目標を設定します。

ポイント

●景観特性・・・読み取りの手がかり例●

■自然景観

●自然環境の要素を捉える

地形・地勢・植生・土壌・水系などの環境要素とその変遷を整理し、土地本来の性質を把握します。

●見え方を捉える

平地や丘陵地などの地形の変化を把握し、そこからの眺望を把握します。

●季節的特徴を捉える

植物、動物、昆虫、気候や生活など、四季折々の季節的特徴を把握します。

■歴史・文化的景観

●歴史的背景を捉える

地域の歴史を知ることは、地域の景観特性を知るうえで重要となります。次のような手がかりをもとに読みこんでみましょう。

- ・地名の由来 ・まちの成り立ち ・古地図
- ・文化財、歴史的建造物 ・保存樹木、古木大木 ・地域らしい素材

●人々のくらしの歴史を知る

地域のくらしの歴史を知ることで、地域の生活環境が見えてきます。これらは、地域の文化を育む大切な要素であり、景観デザインを考える上でも重要です。

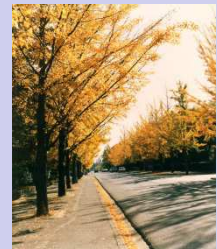
■市街地・集落景観

●くらしの風景を捉える

地域周辺の人口の変化、年代別人口比率や、地域住民の日常の暮らしの様子などの特徴を整理します。また、非日常的なお祭りやイベントなどを知ることも地域の活動特性を知る上で重要です。

●人の流れ、地域のまとまりを捉える

通勤や通学時の様子や、休日の賑わいの様子や人々の集まる場所などを把握することで、活動空間としてのまとまりや人や車の動線などを把握します。



黄金色のイチョウ並木



京橋渡り初め図



出石町お綱祭り



京橋朝市

（3）計画段階

■景観配慮のポイントを押さえる

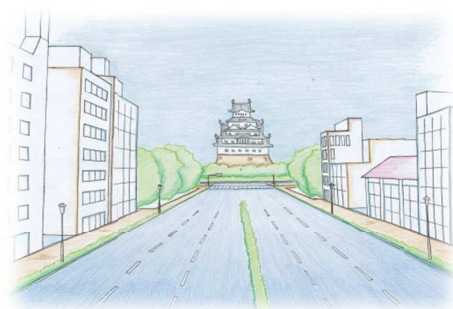
構想段階で設定した景観づくりの目標をもとに、地域の景観特性を活かしたデザイン方針を設定するにあたっては、次のことに留意しながら進めていきましょう。

○見やすさ

良好な景観とは、見たいものが、他のものに邪魔されずに、程よい大きさに見えている眺めをいい、それは心地よい景観です。

街や自然などを印象深く見せるためには、視軸線上に障害物がなく程よい大きさに見せる視点を数多く作ることが重要です。また、視軸線上の障害物（たとえば電線電柱、看板、樹木、擁壁など）を取り除くだけでも、景観上大きな効果があります。

見せたいものを修景することも大事ですが、まずは、見せたいものがきちんと見える工夫をしましょう。



○調和性

公共施設は、あらゆる場面で景観を構成する要素となります。しかし、橋梁や大規模建築物など特別の場合を除いて、公共施設それ自体が主役となることは多くはありません。それぞれの景観の中で何が主役になるのかを見極めながら、公共施設を山並みや水辺などの自然地形に調和させるのか、沿道に並ぶ街並みに調和させるのか、周辺に広がる田園に調和させるのかなどを考えていきましょう。

【残念な例】



○統一性

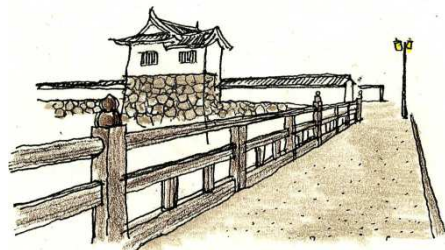
公共施設は、その面的広がり、連続性、規模の大きさなどから、都市のイメージを抱く主要な要素となります。また、利用者の広範さ、施設の恒久性から、長期にわたって景観資源となります。そのため事業の計画にあたっては、隣接・近接する他の公共施設との空間的な整備方針の統一と、同一施設での時間的な整備方針の普遍性が求められます。ただし、画一的な整備はかえって単調に感じられるので、時にはアクセントをつけることも必要となります。

【残念な例】



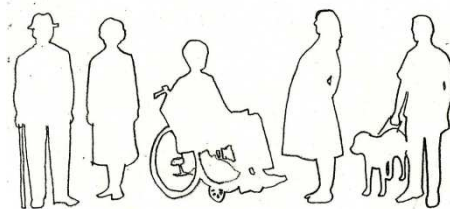
○地域性、歴史性、文化性

景観とは見た目の景色だけを指すのではなく、その地域の歴史や文化が溶け込み、五感で感じることができものです。景観配慮を行うにあたっては、こうした地域固有の特色やその地域での位置付けを読みとり、地域性に応じた配慮を行うことが重要です。



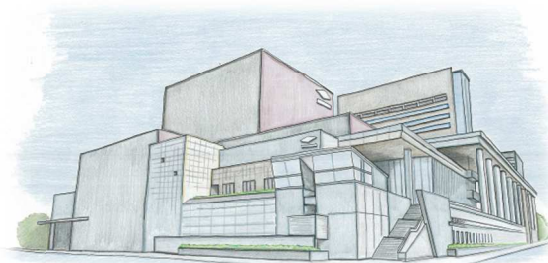
○快適性

公共施設は様々な人に幅広く、長い期間利用されるため、利用のしやすさ、使い心地が求められます。正に人を大事にすることが環境整備です。利用者に不快感を与えたりするような場合は、景観整備とは言えません。自然景観においては、地域に生息する動植物たちにとっての快適性にも配慮する必要があります。ユニバーサルデザインや生態系について検討するなど、利用者の立場に立ったデザインを心がけましょう。



○機能性

公共施設は、市民ホール、教育、集会、スポーツ、福祉など、それぞれの役割をもっています。公共施設が持つ本来の機能に加えてデザインも機能の一部です。法令等により定められた基準、機能をデザインの一部とした機能美の創出に心がけましょう。



○安全性

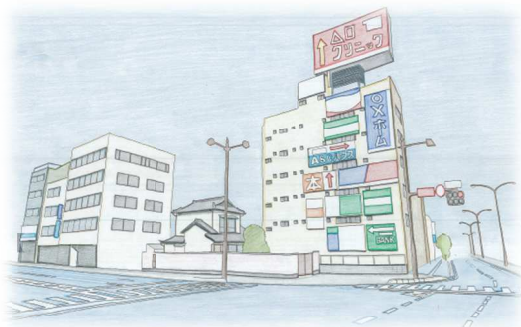
公共施設は老若男女、様々な人が利用するものです。安全が最優先ですが、安全であれば景観が悪くても仕方がないという考えはできません。安全と景観の両立が必要です。法令等により定められた基準とともに、景観配慮を行う必要があります。

○経済性

景観に配慮することが、必ずしもコスト高につながる訳ではありません。景観整備はその場にふさわしいものにするものであり、何か特別のものを作ることはありません。また、同製品の中で色彩に配慮したり、既存材の再利用が処分費と購入費を抑えたりなど、景観配慮とコスト縮減は両立できるものです。

○バランス

景観配慮を行うことは、単に華やかな装飾や色彩を施すことではありません。ヒューマンスケールを取り入れるなど、景観を構成する各要素のプロポーションを考えたうえで、全体のバランスや収まりのよい景観配慮を行うことが重要です。



○エイジング

景観は空模様や四季の移ろいなど、時間的条件や時間の経過とともに変化していきます。特に自然地形や自然素材などを含んだ景観においては、時間の変遷とともに、その景観の魅力が成熟していきます。こうした「エイジングの美」についても意識しながら、景観配慮を進めていくことが重要です。



○協働

景観は、市、市民、事業者が共通の目標に基づいて三位一体となって取り組む必要があります。市が担う道路などの公共空間と市民や事業者が担う建築物などの私的空間が調和することで、統一感のある美しい都市景観が生まれます。その先導的な役割を果たすのが、市です。また、ワークショップなどにより、三位一体の取り組みを進めましょう。



COLUMN

●市役所筋等の街並み誘導

昭和46年、「緑と花、光と水のまちづくり」を進めるため、市役所筋と県庁通りについて「街並み整備誘導指針」を作成し、建築主に壁面後退や緑化を要請してきました。当時は、全国でも先駆的な取り組みでした。市役所筋では建物更新が進み、約40年を経た現在、歩道状の公開空地には緑化やモニュメントが施され、風格と潤いのある街路景観が形成されています。

現在、この取り組みは、景観計画の景観形成重点地区に引き継がれています。



【市役所筋】

■景観配慮の重要度の判定と景観デザインの留意点

① 景観配慮の重要度の判定

構想段階で把握した地域の景観特性と地域一帯の景観形成の目標を踏まえて、施設の設計をする上でどの程度周辺景観に配慮すべきなのか目安とするため、景観配慮の重要度を判定します。

○＜重要＞と判定する場合の事例・・・特別の位置付けがある場合

- ・ 景観計画に位置づけがある地域（景観形成重点地区、景観重要公共施設、景観重要建造物、景観重要樹木、等）＜景観法、岡山市景観条例＞
岡山市景観計画を参照
- ・ 景観農業振興地域整備計画が策定されている地域＜景観法＞
指定なし
- ・ 屋外広告物モデル地区＜岡山市屋外広告物条例＞
桃太郎大通り
- ・ 風致地区＜都市計画法＞
後楽園、烏城及び操山地区
- ・ 景観地区＜都市計画法＞
指定なし
- ・ 伝統的建造物群保存地区＜都市計画法＞
指定なし
- ・ 景観まちづくり協定が結ばれている地域＜岡山市景観条例など＞
庭瀬陣屋町周辺、出石一丁目地区周辺、西大寺観音院周辺地区
- ・ 文化財など歴史を語る施設の周辺地域＜文化財保護違法、県・市文化財保護条例等＞
国・県・市指定文化財、登録文化財、地域の誇りとなっている文化財など
- ・ 町並みの保存など景観整備に取り組んでいる地域
足守陣屋町周辺
- ・ 「緑、水、農、歴史、都」の特徴的な景観を有している地域
- ・ ランドマークとなっている周辺4山近郊5山
- ・ その他良好な景観を形成している、もしくはしようとしている地域
- ・ 地域のシンボルとなる公共施設
- ・ 広域的な景観形成の骨格となる公共施設
河川：旭川、笹ヶ瀬川、足守川、吉井川、砂川など
道路：国道、主要地方道など

○＜普通＞と判定する場合の事例・・・特に位置づけがない場合

- ・ 上記以外の地域で、特徴的な景観を有しない地域
- ・ いわゆる一般的な市街地、農業地域、自然地域などを指す

② 景観デザインの留意点

景観配慮の重要度に応じた下記の留意点に注意しながら、地域の場所性にふさわしい景観デザインの方針を定める。

○＜重要＞と判定した場合の留意点・・・位置付けに応じた特別な景観配慮が必要

- ・周辺景観との調和に十分配慮して、異質なものは作らないなど景観への影響を最小限に止める。
- ・周辺景観の価値を高めるため、周辺を引き立てる洗練されたデザインとする。
- ・現にある景観阻害要素は極力取り除き、景観阻害要素を新たに作らない。
- ・良好な景観を見せるために、視点場を適所に設ける。
- ・地形を改変する場合は、切り盛りを少なくするなど大地への傷を最小限に止める。
- ・地域のランドマークや誇りとなる施設は、造形美を追究し、本物志向で質の高いデザインとする。

○＜普通＞と判定した場合の留意点・・・場所性に応じた景観配慮が必要

- ・周辺景観との調和に配慮して、景観を損なわないようにする。
- ・自然、生態及び人に優しいデザインや単調さを避けるためのデザインなどを一つでも取り入れる工夫をする。
- ・無骨な生の構造物に少しでも造形的な美しさを加える。
- ・周辺景観を適正に誘導したい場合は、良好な景観を先導的に整備する。
- ・地形を改変する場合は、大地への傷をできる限り少なくする。

COLUMN

●公共施設とデザイン

市内の公共施設は岡山市の独占状態です。岡山市という独占企業が作り、市民へ提供する唯一の公共施設だからです。市民は他都市と比べて公共施設の良し悪しを批評はできても、自らが使う公共施設を選ぶことはできません。好むと好まざるとにかかわらず市から提供される公共施設を利用せざるを得ません。だからこそ、市職員が厳しい目と確かな技術力を持って、しっかりとした公共施設を作ることが必要なのです。

公共施設には、機能性や耐久性に加えてデザイン性が求められます。一般の商品も同じで、デザインが良くないと売れません。マーケティング上、デザインは商品の販売を左右する重要な要素となっています。ただ、公共施設が一般商品と違うところは、一般商品が斬新性と差別化を追い求めているので、流行や廃りが必ず生じます。

しかし、公共施設は一時の流行や個人の好みに流されてはいけません。公共施設は不特定多数の人に日常的に利用され、また50年100年とその場に存在し続ける施設なので、多数の人に愛される美しさと時代の変化にも色あせない美しさが求められます。このため、公共施設を作る技術者として確かな審美眼を養いましょう。

（写真：岡山市西消防署）



デザイン方針の設定

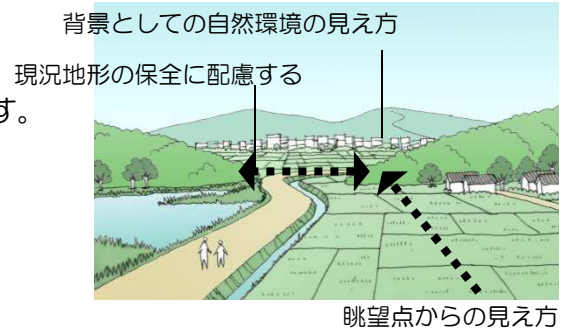
構想段階でイメージした景観構想をもとに、地域の景観特性を活かしたデザイン方針を設定するにあたっては、景観デザインのポイントを踏まえて、次のことに留意しながら進めていきましょう。

○建物に求められる計画条件や役割を把握する

- ・計画する施設の機能性を把握し、立地条件、周辺特性からデザインする。
- ・街の場所性やイメージを高める。

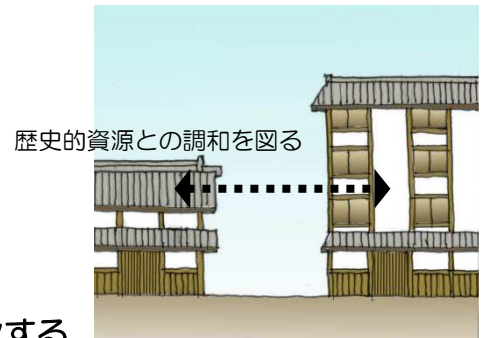
○自然的条件を守り、活かす

- ・山、丘陵地、斜面など変化に富んだ地形を活かす。
- ・河川、海、水路、池などの水辺を活かす。
- ・多様な動植物が生息する自然環境を保全、創出する。
- ・樹木や草花などにより、四季の変化が感じられる景観づくりを行う。



○歴史的条件を守り、活かす

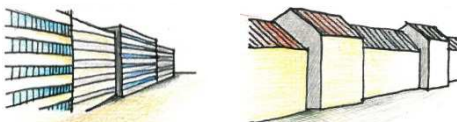
- ・景観を時間的にとらえ、歴史的なつながりを持たせ、地域の個性的な景観を形成する。
- ・歴史だけでなく、将来の地域の変化も予測し、地域に溶け込む景観づくりを行う。
- ・歴史的・文化的景観を保全し、街並みとの調和を図る。
- ・歴史的なデザイン要素を活かす。
- ・地域の個性をつくっている素材を活かす。



○景観形成に配慮した建築の基本的な型をデザインする

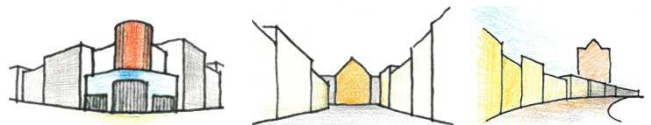
- ・周辺の景観を読み取り、その建物の機能や、まちづくりにおける役割と合わせ、街並みをつなげるか際立てるか判断する。

【つなげる型】連続した街並みの保全、形成



- ・形態や表情をなじませる
- ・壁面線、スカイラインなどをそろえる

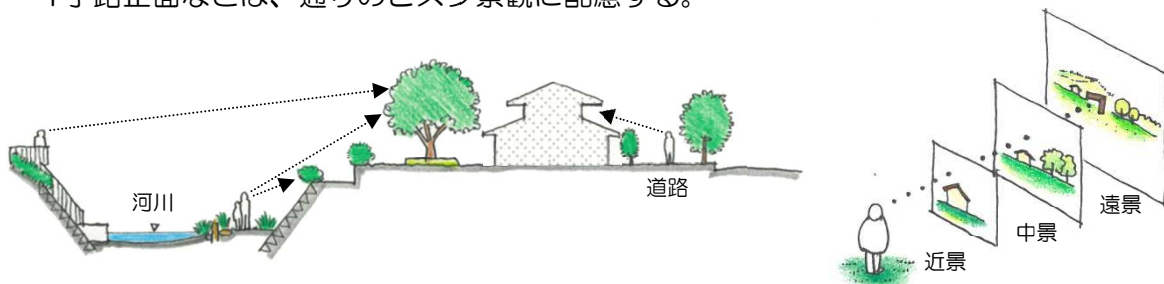
【際立てる型】街並みにアクセントを創る



- ・ランドマークとして際立たせる
- ・アイストップとして街角デザインを演出する

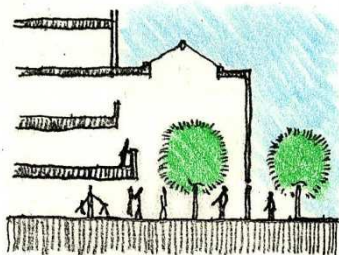
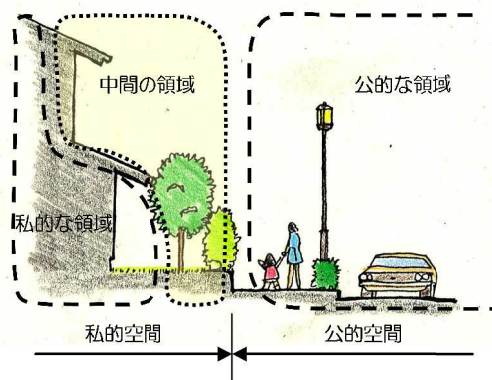
○視点からの見え方に着目する

- ・景観要素として、交差点や河川などの視点から近景・中景としてどのように見えるかを検討する。
- ・T字路正面などは、通りのビスタ景観に配慮する。

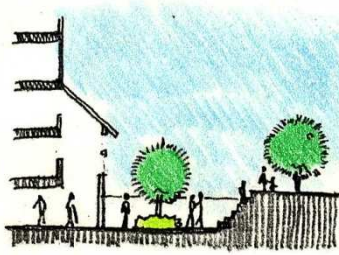


○建物配置とオープンスペースの空間構成を考える

- ・私的な領域と公的な領域が互いに関わり、活かしあう「中間の領域」（セミパブリックスペース）としての視点で景観デザインを考える。
- ・街並みの特性、歩行者空間と一体となるオープンスペースを設ける。
- ・高度利用が必要な建物では立体的なオープンスペースを工夫する。
- ・建物形態、低層部の用途に合わせて、魅力的なオープンスペースを創る。
- ・街路景観の重要な要素であるオープンスペースの連続性に配慮する。



アトリウム



サンクンガーデン



広場的オープンスペース

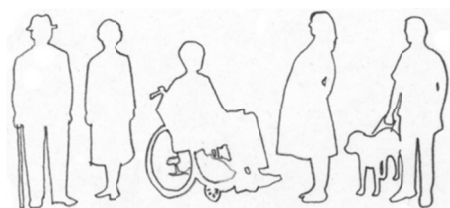
○通りの雰囲気を作る建物低層部のあり方を考える

- ・街並み、通りの特性、人の流れに配慮した建物低層部のデザインを工夫する。
- ・大規模な建築物や駐車場を計画する場合は、周辺の街並みとの調和を考慮し、壁面デザインの方節化や緑化などによりヒューマンスケールなものとする。



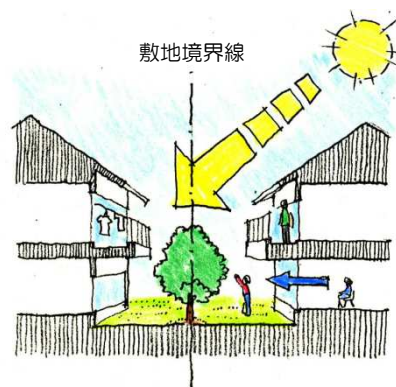
○ユニバーサルデザインを推進する

- はじめから、すべての人にとって利用しやすいような優しいデザインが求められている。
- サインなどの色彩計画は、年齢による見え方や感じ方の変化、視覚障害者への対応が不可欠となる。
- 防災、防犯を考慮した安全・安心な施設づくりを行う。



○周辺敷地の環境について配慮する

- 道路と建築物など違う種類の施設が隣接する部分は、一体的な景観を形成する上で重要な部分であるため、早い段階で調整を行い、共通の方向性を持つ。
- 周辺環境や街並みを阻害しない日照・通風の取り方を工夫する。
- 道路境界、隣地境界部分の空地の確保、植栽によりゆとりある空間を創出する。



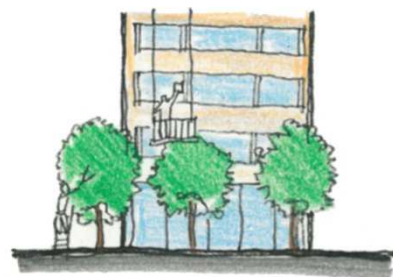
○素材感を活かす

- 自然地形や自然素材は、時間の経過とともに、その魅力が成熟される。こうした「エイジングの美」についても意識しながら、材料選定等を行う。



○計画的な維持管理を行う

- 建築物の劣化は、見苦しい景観をつくる要因となるため、計画的な維持管理を行う。
- 計画にあたって、メンテナンスの体制・プログラムづくりなど総合的な維持管理のあり方を検討する。
- 既製品の活用や、使用した材料のストックなど、後の維持管理に役立てる。



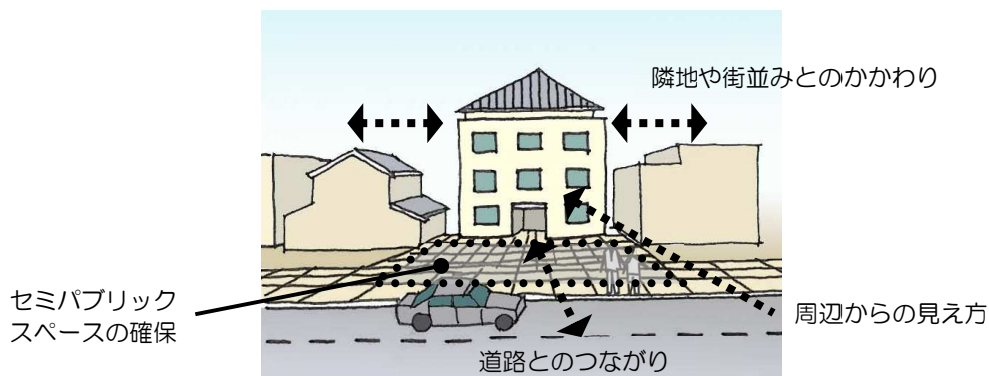
（４）設計段階

詳細デザインの決定・・・各部位のデザイン

ここでは、個々の要素や空間などについて、計画において配慮したい点を設計手法として提示します。計画している施設や事業の内容にあわせ、手法や技法を参考にしながら活用してください。

① 建築物の配置・形態

建築物の配置・形態は、周辺の街並みに大きな影響を与えます。計画段階での検討を踏まえ、道路や周辺環境に配慮した配置・形態の創意・工夫により、魅力的な街並みの表情を創出しましょう。



○周辺の街並み、自然環境や歴史的環境との調和が図れるよう配置・形態を工夫する

- ・周辺景観との調和に配慮した、違和感のないまとまった形態、釣り合いの良い配置とする。
- ・周辺の緑・水辺などとのつながりに配慮する。
- ・山稜の近くでは、稜線を乱さない、山並みのスカイラインに配慮した配置、形態とする。
- ・屋根の形状によるつながりに配慮した、違和感のない街並みとする。
- ・隣接する建物どうしの壁面線をそろえ、建物、オープンスペースなどのつながりをつくる。
- ・圧迫感や閉鎖感を感じさせない配置・形態とする。



周辺景観との調和に配慮した、違和感のないまとまった形態、釣り合いの良い配置となっている



周辺の緑と調和し、稜線を乱さないよう屋根の形状、色彩に配慮している



隣接する建物どうしのつながりに配慮した形態・配置としている



山並みのスカイラインに配慮した形態・配置としている



ロータリーに面した特徴を活かし、つながりを持たせることで新たな魅力を創出している



隣接する建物どうしの壁面線をそろえた美しい街並み



隣接する建物どうしの壁面線をそろえ建物、オープンスペースなどのつながりをつくっている



屋根の形状によるリズムカルなつながりに配慮した違和感のない街並み



屋上緑化により周辺に潤いを与えている



ファサードを曲面とし、ガラス張りとすることで圧迫感や閉鎖感を感じさせない配置・形態としている

○敷地周辺の景観特性を活かし、地域の魅力ある景観形成を図る

- ・斜面などの地形の起伏に合わせた配置、形態とする。
- ・河川、海など水辺の景観がもつ広がり配慮した形態とする。
- ・優れた樹木、樹林や歴史的建造物などの景観資源を保全し、修景に活かした配置とする。
- ・歴史的建造物等の背景と一体的な景観を有する地域では、その保全や見え方に配慮した形態、配置とする。
- ・ランドマークとなりえる場所や街角周辺では、場所性を考慮した配置・形態とする。



斜面状の地形に合わせた建物の配置、形態により自然景観への調和に配慮している



歴史的な風情のある水辺空間に配慮し、地域景観の魅力を高めている



樹形の優れた樹木をシンボルツリーとして保全し、修景に活かした建物の配置としている



地域に残る樹木を保全し、修景に活かした建物の形態・配置としている



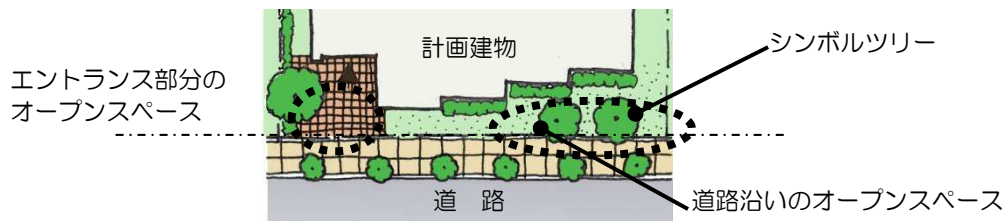
歴史的な街並みに配慮した形態・デザイン・配置となっている



建物自体を街のシンボルとしている

② オープンスペースの創出

敷地内のオープンスペースは私的空間であっても、道路に面した部分は公共的な性格が強く、魅力ある街並みの形成に大きな役割を担います。特に大規模な建築物の場合は道路とのつながりが街路景観に大きな影響を与えるものであり、潤いとゆとりあるオープンスペースを創意・工夫により演出しましょう。



○壁面の後退により、道路空間に潤い、ゆとりをつくる

- ・建物全体あるいは低層部の壁面後退により、歩行者に対して圧迫感を和らげる。
- ・オープンスペースの形状、性格に応じた樹種の選定、植え方を工夫し、潤いのある緑の空間をつくる。
- ・花や落葉樹により街並みに季節感を醸し出す。
- ・オープンスペースの特性に応じた舗装材料、デザインを工夫する。
- ・歩道面との段差をなくし、歩道の舗装材と合わせるなど一体的な歩行者空間を創出する。
- ・施設利用者、歩行者動線に配慮した滞留スペース、歩行者のたまり場的な空間を設け、賑わい空間を創る。



低層部のわずかな壁面後退であるが、歩行者に対して圧迫感を和らげている



建物全体の壁面後退によるまとまったオープンスペースが、歩行者への圧迫感を和らげている



狭い歩道に面して、わずかな壁面後退であるが歩行者にとって歩きやすくなっている



街角にオープンスペースを確保し、歩道と一体化している



オープンスペースの形状、樹木の植え方を工夫し、潤いのある緑の空間となっている



広いオープンスペースを活かし、常緑樹を植栽し、歩道と一体的な舗装、デザインを工夫している



落葉樹の植栽で街並みに季節感を与えている
ベンチを配置し、歩行者空間の魅力を高めている



オープンスペースへの植栽により、賑わいの中にも街並みに潤いを与えている



緑豊かな植栽により街並みに潤いを与えている



壁面後退した敷地内を緑化し、歩行者空間に潤いを醸し出している



壁面後退した部分を緑化し、歩行者空間に潤いを醸し出している



歩行者動線に配慮したたまり場の空間を設け、賑わい空間を創出している

○歩行者動線を敷地内に引き込むセミパブリックスペースを確保し、奥行きのある表情豊かな街並みを創る

- ・建物内、敷地内に歩行者の通り抜け、路地裏的な空間をつくり歩行者ネットワークをつくる。
- ・開放された中庭、小広場を設け、歩行者空間の魅力を高めるしかけをする。



敷地内に小広場、シンボルツリーを設け、中庭的な都市空間をつくり、街並みの魅力を高めている



建物敷地内に歩行者の通り抜け通路を設け、都市空間の魅力を高めている



建物敷地内に公開空地としての広場空間をつくり、都市空間の魅力を高めている



建物敷地内に歩行者の通り抜け通路を設け、路地裏的な空間をつくることで回遊性を高めている



開放された魅力ある中庭、小広場をつくり、歩行者を敷地内に引き込むしかけを工夫している



敷地内に小広場、路地裏的な都市空間をつくり、街並みの魅力を高めている

○街角にゆとりある都市空間をつくる

- ・ エントランス部分にオープンスペースを確保する。
- ・ 角地に面する部分にオープンスペースを確保し、樹木やモニュメント、ベンチなど配置し、潤いある街角広場をつくる。
- ・ 道路とのデザインのつながりに配慮し、歩道と一体的な空間とする。



角地のエントランス部分にオープンスペースを確保し、ゆとりある歩行者空間を設けている



角地のエントランス部分にオープンスペースを確保し、潤いある街角広場を設けている



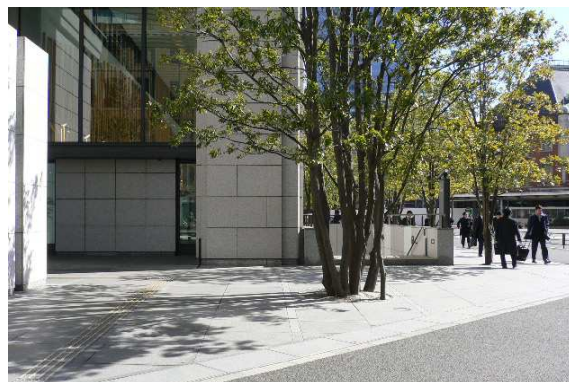
歩行者空間に面してオープンスペースを確保し、ゆとりある人だまり空間を設けている



角地にオープンスペースを確保し、ゆとりある歩行者空間を設けている



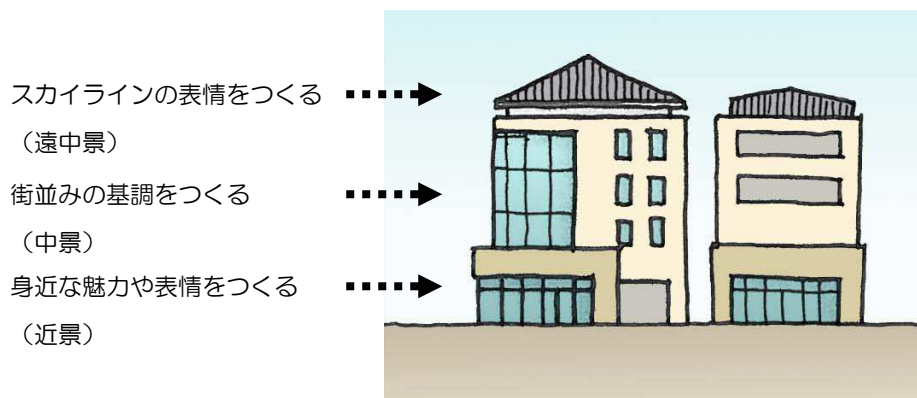
角地にオープンスペースを確保し、修景緑化による潤いある街角広場を設けている



角地にオープンスペース、シンボルツリーを設け、歩道と一体的な空間としている

③ ファサード・エントランスのデザイン

建築物のファサード、エントランスのデザインは、街並みの景観を創る重要な要素です。周辺建物との調和、街並みの連続性を確保するとともに、景観を特徴づける歴史的建造物の保全・活用など街並みの魅力的な表情を創出しましょう。



○街並みとのつながりや連続性をつくる

- 屋根の形状、高さ、ファサードのデザイン、色彩などについて街並みの連続性、つながりに配慮する。
- 通りの性格、周辺の街の賑わいや落ち着き、特性に配慮する。



開放的なファサードのデザインが、まちの賑わいやつながりを創出している



建築物の高さ、ファサードのデザイン、色彩などについて街並みの連続性、つながりに配慮している



周辺の歴史的な街並みとのつながりに配慮したデザインとしている



周辺の歴史的な街並みとのつながりに配慮するとともに賑わいを創出している